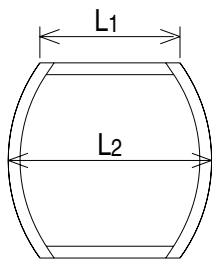
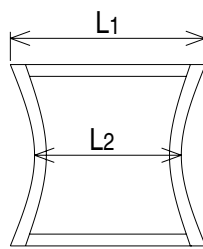


サッシ・ドア商品の施工についてのお願ひ

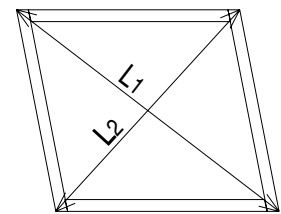
- ・高断熱、高気密住宅が増加しており、このような住宅にサッシ・ドア商品を納める場合、躯体精度によって商品本来の性能（耐風圧性・水密性・気密性・断熱性・遮音性）を十分発揮できない場合があります。
また、躯体との取合においては、枠周囲から漏気に伴う断熱性の低下や、漏水の原因が問われる場合がありますので施工するには十分な注意をお願いいたします。
- ・掲載している図は納まり参考例の一つです。建物の工法、建物に求められる性能、立地条件などを考慮して適切な施工を行ってください。
- ・防水シート、防水テープ、シーリングなどの防水施工はそれぞれの材料の特性を説明書などで確認し正しい施工を行ってください。
- ・サッシ枠と柱の間にすき間がある場合は必ずライナーを入れて施工を行ってください。
- ・障子・網戸施工の際には落下防止の外れ止め部品を必ずかけてください。
- ・施工後、開閉に支障がないか、錠の施解錠に異常がないか、必ず開閉を行い確認してください。
- ・施工時、以下のL₁、L₂寸法が同寸法になっているか、また、ねじれ（A寸法）が出ていないかを必ず確認、調整してください。



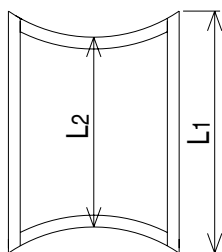
1.サッシ枠のソリ(フクレ)



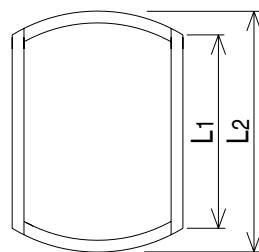
2.サッシ枠のソリ(ツヅミ)



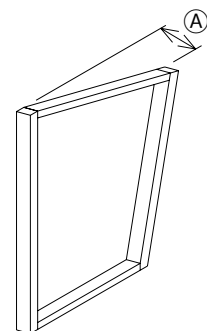
3.サッシ枠対角の差



4.サッシ上下枠の内ソリ



5.サッシ上下枠の外ソリ



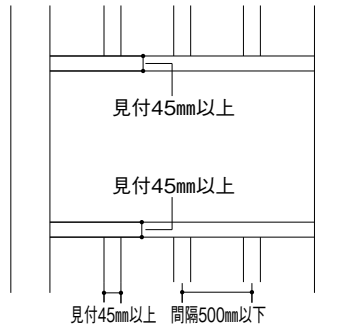
6.サッシ枠のねじれ

開口部まわりの気密化と漏水対策

住宅サッシの施工手順について 通気工法・サイディング横張りの場合

開口部まわりは、建物の工法、求められる性能、立地条件などを考慮して適切な施工を行ってください。住宅サッシの施工では気密性の確保や漏水防止対策などが重要になります。適切な対策が行われないと、すき間が生じたり、また漏水の原因にもなりますのでご注意ください。ここに掲載している施工手順は、透湿防水シート後張りタイプの参考例です。

1. 開口を造る。

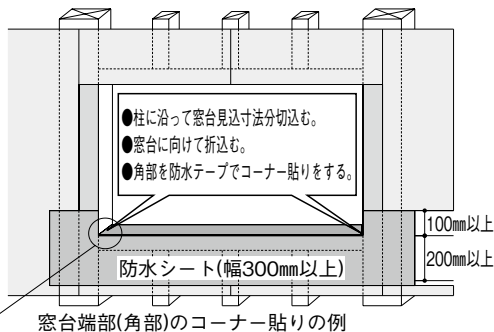


●複層ガラス入サッシの重量は単板ガラス用サッシの約2倍。

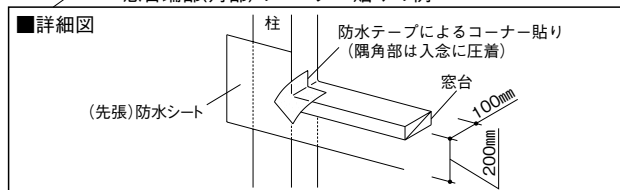
荷重を支えるため、

- ・間柱、まぐさ、窓台の見付は45mm以上とする。
- ・間柱は間隔500mm以下で配置する。

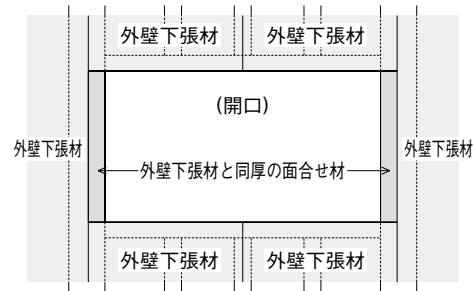
3. 窓台に防水シートを張り、窓台端部に防水処理を施す。



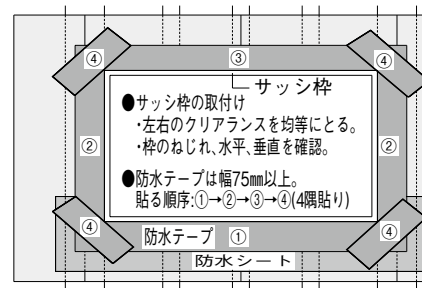
窓台端部(角部)のコーナー貼りの例



2. 外壁下張材を張り、左右柱に下張材と同厚の“面合せ材”を取付ける。



4. サッシ枠を取付け、サッシ枠廻り4辺に防水テープ(両面タイプ)を貼る。



●サッシ枠4辺(①②③)に防水テープを施工する。

※テープはサッシ枠の釘打ちフィンを覆うように押付けて貼る。

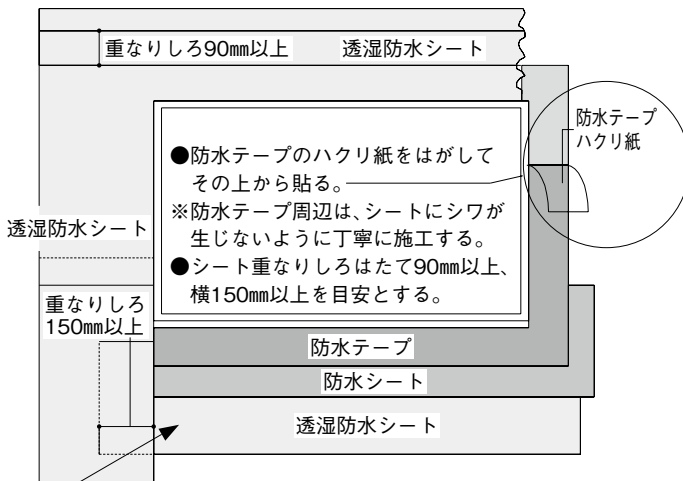
●サッシ枠4隅(④)に防水テープを貼る。

※サッシ枠の角部が完全に隠れるようにサッシ枠に押付けて貼る。

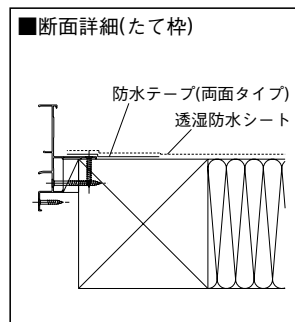
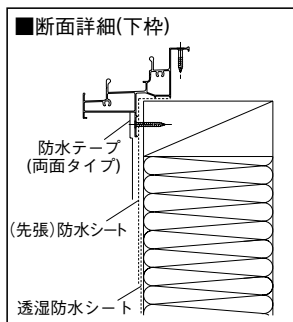
注)防水テープの重なり部分およびサッシ枠との貼合せ部分は、十分に強くこすりつけて、ピンホールが生じないように注意する。これが十分になされている場合は、④(4隅貼り)を省略してもよい。

●重なり部分はハクリ紙をはがして貼る。

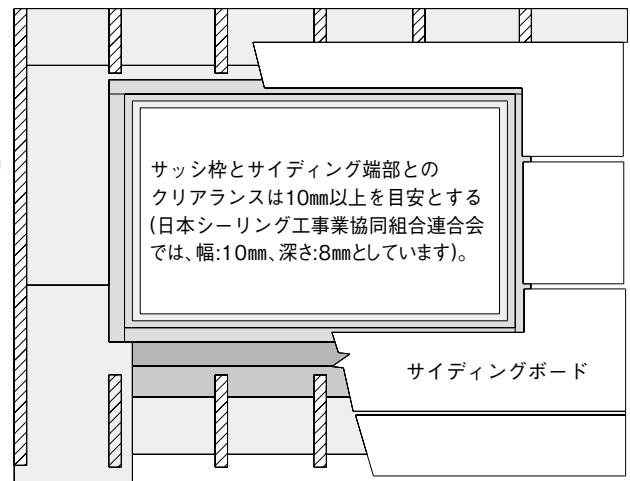
5. 透湿防水シートを施工する。



- 下枠部(窓下)には透湿防水シートを防水シートの下に差込む。

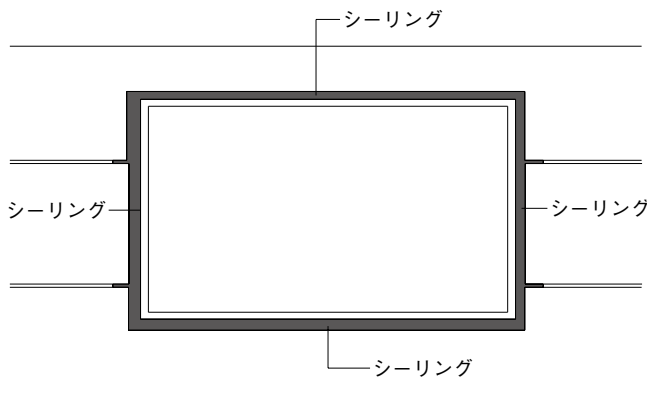


6. 通気胴縁を取付け、外壁材を施工する。 (横張りサイディングの例)



- 柱・間柱のピッチで通気胴縁を施工する。
(窓上、窓下の気流を妨げないように)
- サッシ枠周囲四方に胴縁を付ける。
→胴縁は上は横通し、下はたて通し。
※サッシ枠と胴縁との間は、バックアップ材・シーリングしろを考慮したクリアランスをとる。
- 胴縁で透湿防水シートと防水テープを押さえるように取付ける。

7. 外壁材小口の防水処理と開口部周辺のシーリング施工をする。



- 外壁材小口にはシーリング前に専用のプライマーを塗布する。
(シーリング部分)
- 外壁材小口とサッシ枠の間にバックアップ材を充填した後にシーリング施工する。

